

## 医療費、医師から薬剤師に「シフトしていない」 薬研が日医総研WPに反論、増加額は診療所が薬局上回る

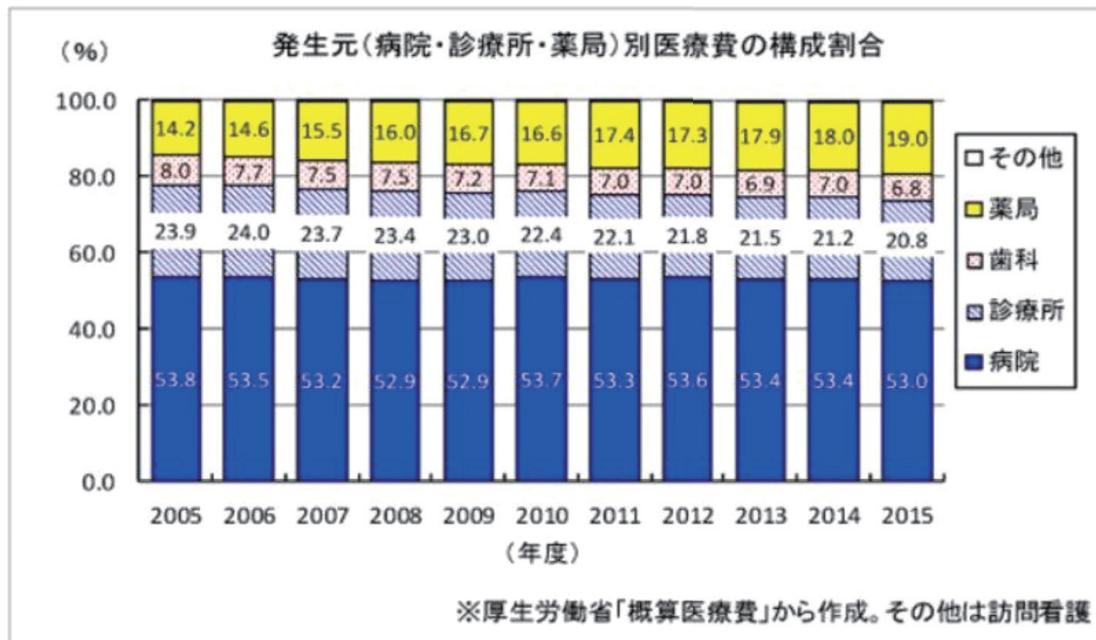
中小薬局でつくる保険薬局経営者連合会（薬経連）系のシンクタンク、薬事政策研究所（薬研）の田代健主席研究員は、日医総研が11月にまとめたワーキングペーパー（WP）の中で、2005年度と15年度の医療費の構成割合を比較し、「10年前と比べ医師から薬剤師へ医療費がシフトしている」と指摘したことに対し、反論した。05年度と15年度の技術料を増加額で比較すると、診療所の0.8兆円に対して薬局はそれを下回る0.6兆円で、医療費が薬剤師に流れているとの指摘は当たらぬとしている。じほうの取材に答えた。

【写真】薬研の田代主席研究員



日医総研がまとめたWP「最近の医療費の動向とその配分」では、厚生労働省が毎年公表している「概算医療費」を基に、05年度から15年度までの10年間の発生元（病院・診療所・薬局）別医療費の構成割合をグラフで示し、「医療費の医療機関への配分という観点で見ると、10年前と比べて診療所が23.9%から20.8%（3.1ポイント減）に減少し、薬局が14.2%から19.0%（4.8ポイント増）に増加した。医薬分業拡大の影響もあるが、医師から薬剤師へ医療費がシフトしているといつてもいいだろう」と結論付けている。

### ■ 日医総研がワーキングペーパーで使用した図表（HPより転載）



これに対し、薬研は「概算医療費」と「社会医療診療行為別統計（調査）」を基に、05年度と15年度の入院と入院外（薬局、診療所、病院）の医療費を算出。10年間の増加額を比較した。薬剤料は薬剤比率を社会医療診療行為別統計（調査）から求め、概算医療費に乗じることで得た。技術料はそれ以外の医療費として算出した。

#### ●技術料増加額は診療所0.8兆円、薬局0.6兆円

その結果、この10年間の総医療費の増加額10兆円のうち、最も増加額が大きかったのは入院の3.4兆円。次いで、薬局の薬剤料の2.7兆円、病院の1.1兆円、診療所の技術料の0.8兆円、薬局の技術料の0.6兆円の順で、この10年間の技術料の増加額は診療所が薬局を上回っていた。一方、診療所の薬剤料は0.1兆円減少した。

■病院・診療所・薬局別の医療費の増減(2005年度と15年度の比較) 単位(兆円)

		2005年度	2015年度	増減額
入院外	総医療費	32	42	10
	入院	13	16.4	3.4
		19.4	25.1	6.7
	薬局	4.6	7.9	3.3
		(技術料)	1.3	1.9
		(薬剤料)	3.3	6.0
			7.6	8.3
	診療所	(技術料)	5.9	6.7
		(薬剤料)	1.7	1.6
	病院	4.8	5.9	1.1

厚生労働省「概算医療費」「社会医療診療行為別統計」より作成

この結果を踏まえ田代氏は、薬剤料については薬局が増え、診療所が減っているため、「診療所から薬局に移っているとは言える」と分析。一方、技術料については「薬局よりも診療所の方が増えているわけだから、（医師から薬剤師に）シフトしているとは言えない」と指摘した。薬局の医療費の増加率が高く見えるのは、薬剤料の伸びが要因で、薬局の技術料の伸びは高くないとあらためて主張している。

田代氏はまた、WPが05年度と15年度の病院・診療所・薬局別医療費の構成割合を比較し、医師から薬剤師へ医療費がシフトしていると指摘していることに対し、「分母（総医療費）が広がってしまったので、（金額の）大きいところは縮小したように見えているだけの話」とし、05年度と15年度では分母の総医療費が異なるにもかかわらず、構成割合を比較することは意味がないと指摘。金額ベースで比較するべきだとしている。